

立教大学文学部・特任教授

**永田 治樹**  
ながた はるき



**「図書館と電子書籍」**

「この夏に米国東部の都市部の公共図書館を訪ね、その実状を尋ねてみた。ここ一年ほど電子書籍の利用(定期ダウンロードして利用できる)は爆発的に伸びていて、そのサービスのための経費が大幅に増えているという。人気のタイトルには、印刷本に

上の待ち行列ができ、5件の予約が入れば、次の電子図書が発注するという図書館もあった。

一方、図書館での利用の急速な伸びを出版社が懸念し、ある出版社は貸出上限を26日に設定して、それに反発した図書館の boycott の動きもある。関係者の間で協議すべき課題がなお残っている。また、電子書籍にまつわる権利管理(DRM)が、利用を開始する際いくぶん面倒な手続きを必要としている。しかし確かなことは、電子書籍利用の急速な伸びであり、それに出版のあり方にも変化が現れて(作家が自ら出版するなど)、これまでの出版流通に対応するだけでは、図書館は人々の読書機会の確保を全うすることはできなくなっていることだ。

手から始まるが、それとともにパソコンや電子図書リーダ(書籍端末)の設置とときに貸与や、それを利用の補助が必要である。フィニッシュでは、図書館(市内に55館)はもちろんだが、コミュニティセンター、教会、デイケアセンターなど社会サービス施設などに、ハードを用意しかつ電子書籍の使い方講座を展開してスペースと管理は各施設に依頼、このサービスを「ミニミニ」に浸透させていた。わが国では、出版の問題やフラットフォームとなる配給システムの立ち遅れなどがあるため、電子書籍の進展に今少し猶予があるとはいえ、公共図書館にサービスの見通しが不透明では済まされまいだろう。

※地方誌には、電子書籍サービスを開始している図書館に触れてあるものもある。

昭和19年愛知県生まれ。名古屋大学・国文学研究資料館・東京大学・金沢大学・北海道大学の図書館などに勤務の後、平成6年から図書館情報学、筑波大学で図書館情報学の教育研究に従事し、平成20年に退職。本年4月から現職。「図書館経営論」(日本図書館協会)など著書・論文多数。



# 図書館通信



第22号 季刊(秋) 2011

トピックス

●巻頭言 立教大学文学部 特任教授 永田 治樹・・・1ページ  
 ●図書館と私 中央図書館運営専門員 岡村 真美・・・2ページ  
 ●ザ・レファレンス 郷土資料館学芸員 秋山伸一・・・2ページ  
 ●生涯の一幕 三愚舎まやらりー 画廊主 大塚利明・・・2ページ  
 ●地域とつながる 豊島女子学園中学校司書教諭 高司陽子・・・3ページ  
 ●豊島区子ども読書に関する講習会が開催される・・・3ページ  
 ●あうるすぽっとのクリスマス・・・3ページ  
 ●図書館イベント情報・図書館カレンダー・・・4ページ

発行 ●豊島区立中央図書館  
 東京都豊島区東池袋四一五一  
 ライスアリーナビル四階・五階 TEL:03-8440-1111  
 FAX:03-8440-1111  
 ホームページ ●http://www.library.toshimato.kyo.jp  
 発行日 ●平成23年10月



## 新航路 [20]

### 読書の秋

節電の夏が終わりました。企業の節電への取り組みや各家庭での一人ひとりの努力により節電目標を達成できたようです。図書館も休館や開館時間の短縮などにより、利用者の皆さまには大変ご迷惑をおかけしました。ご協力、ありがとうございました。

さて、10月27日から読書週間が始まります。皆さんは、どのくらい本を読みますか。サッカー日本代表のゲームキャプテン、長谷部誠選手は読書家で知られています。ベストセラー「心を整える」(幻冬舎)によると、試合などで日本に帰ってきた時は渡欧前に大量に買い込んで、スーツケースの半分位を本が占めてしまうそうです。「試合に負けて気分が沈んでいるときも、逆に試合に勝って高揚しているときも本を読むと心が落ち着

く。」と言います。本を読み始めたのはプロサッカー選手になってからで、先輩が試合の移動中に読んでのを見て「カッコいいなあ」と思ったのがきっかけらしいのです。理由はどうであれ、今では本がなくてはならないものになってしまったようです。さらに長谷部選手は、読書ノートをつけているそうです。これは、「いいなあ」と思う文に出会っても2、3日経つと忘れてしまうので、印象に残った文は読み終わったら、すぐにノートに書き写すのだそうです。こうして、いつでも「読書ノート」を見ることで印象に残った文を思い出し、「心の点検」をしているそうです。皆さんも「読書ノート」をつけてみませんか。

食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、さまざまな秋がありますが、やはり読書の秋です。豊島区立図書館では、7月5日からお一人15冊まで貸出ができるようになりました。これまで以上に図書館をご利用いただき、読書や調べ物に活用してください。ご利用をお待ちしています。

## Current & Encounter

### 『田口卯吉という存在』 粕谷 一希

豊島区図書館行政政策顧問 粕谷 一希

今日でも、田口卯吉の『日本開化小史』は、簡単に手に入る。岩波文庫の一つだからである。もと、明治十年から十五年にかけて、著者二十歳から二十七歳の五年間に執筆したもので、大蔵省の研究生だったころ、自費出版している。維新後最初の文政史であり、日本では北島親房の『神皇正統記』、新井白石の『読史余論』と比較される名著である。昭和の私たちは、朝日新聞社の嘉治隆一の研究によって田口卯吉を知った。最近、そのご子息であった東大の経済史の教授の嘉治元郎氏が亡くなられたが、父子共に明晰な方であった。嘉治隆一は朝日の全盛時代、緒方竹虎や笹信太郎と同世代の人である。田口は若くして名著を書き、のち『東京経済雑誌』を創刊して競って読まれた。日本のアダム・スミスともいわれたという。その視野は独特で、経済・金融・社会・民俗・人類学・物理・化学に及んだ。時代の変革期になぜこうして早熟な天才が生まれるのであるのか。人間には細分化された現実を専門的に科学する方法と同時に、歴史や哲学のように全体を直観的に把握する道があるようである。この道はこの道で険しい。少数のエリートに任された世界である。しかし、維新とは違った世界大戦による敗北後の戦後日本にも、もっと面白い全体志向の知識人が生まれてもよい。

政界の指導者たちを見ると、政治学の初歩を知らない。日本人は本来こんな善ではなかった。統治とは、外交とは、財政とは、金融とは、企業とは、農耕とは、林業、水産とは、そして社会福祉と労働問題について見識を予め持っているのが指導者の資格である。それは経験と同時に学問によって形成される。政治も全体志向の世界である。世界に対しても恥ずかしい。日本の政治家はもと古典を勉強すべきだ。そうしないと日本は三等国になってしまう。なので「シヤパン」を喜んでばかりはいられない。



「三愚集」

生涯の一冊 (21)

三愚舎ぎやらりー 画麻主  
おおつか 利明  
大塚



1943年千葉県生まれ。池袋モンパルナスの会元代表。07年、雑司が谷に三愚舎ぎやらりーを開設。「がらり雑司が谷文学散歩」(伊藤榮洪著)の表丁画を画く。その他活動多数。

「『愚』を楽しみ・心に遊ぶ」に魅せられて

「三愚集」は小林一茶の句、夏目漱石の書、小川芋銭の画で成っている「俳画帖」である。

〈大正9年7月に発行された三愚集は、天下の文豪や画人と交じり結び、奇才にして大人物なる秋元梧樓(1897-1955)による。『明治百俳家短冊帖』、俳誌「みつうみ」の発行等道楽と趣味に生き、明治42年秋、高濱虚子の紹介により夏目漱石宅を度々訪れ親交を深めていた秋元は、一茶の人間味の俳人なる事を感じ、句集から好きな句を書き抜き芋銭の賛画を付けようと思った。ふとある考えをおこし、漱石は文豪であり人格者、その上変わっている方である。この3人の「三愚集」、これぞ容易に得難い逸品と思

いつき、互いの強い個性を感じ取り、大いに喜び『愚』を楽しんだ。〉  
三人の奇才天才による画帖を漱石自ら命名。(一茶の27句に漱石が達筆を揮ごう、芋銭が得意なる俳画をそそいでいる。)  
以前より酒を酌み交わし、アートを語り共に旅をしていた三愚者(故三平三雄、池田一歩、大塚利明)は、93年4月に東京近代美術館で開催された小川芋銭展で大変なインパクトを与えられ、三人の心は大きく揺さぶられた。翌年2月、雑司が谷「寛」にて有志10名にて食し、いつもの如く酔った威勢で、仙崖禅師も愛した筆先跡儼ならぬ「三天造筆」で遊び、「仙崖の心に遊ぶ」を三愚舎にて発信する。



図書館と私 ⑨

中央図書館運営専門員  
岡村 真実

司書の仕事って…

私の小中学生の頃、北陸の私の出身地には公立図書館やまともな書店というものがなかった。その分学校図書室が充実していた(のだと今にして思う)ようで、初めてみた図書室の色々な本が整然と並べられた様子はとても魅力的なものに感じられた。4年生で自由に入り浸っていた私に、先生が本が好きなら、図書館司書という仕事があるということを知ってくれた。それがどんなものかよくはわからないまま、本に関わる仕事なのだろうと、卒業文集の“将来なりたいもの”に図書館司書と書いた。

それから数十年、まっすぐにそれを目指してきたわけではないが、今は“将来なりたかったもの”として働いている。図書館司書の仕事は、かつてぼんやりと思っていたような、本に関わる仕事ということに間違いはなかった。が、それよりも実際はサービス業としての意味合いが強く、利用する人々が何を欲しているのかを知らなければならぬのだと強く感じている。ただ本に関わりたければ、書店で買うなり

図書館で借りるなりすればいい。が、司書として勤める図書館、とりわけ公立図書館という住民にとって最も身近な存在の図書館の本は、多くの人に使われることによってより意味を持つものなのだと思う。

そのためにできることは何だろうか。今思いつくのは、現在図書館を利用している人のニーズを汲み取ること、世の中の様々な事柄にアンテナを張り巡らすことにより人々の興味の動向を類推すること、そしてそれを図書館の蔵書に反映させることにより、魅力的な蔵書構成にしていけることである。もう一つ忘れてはいけないのが、司書同士が協力しあっていくことである。それによってさらに多様なニーズに応えていくことができるだろう。

将来なりたいものの実態は思っていたものとは違っていたが、それは失望するようなことではなかった。図書館司書の仕事は、日々学ぶことのあるやりがいのあるものだった。この仕事にはゴールらしいゴールはない。満足することなく精進していきたい。

ザ・レファレンス

—豊島区の歴史・文化がわかる本①—

ご案内：秋山 伸一(あぎやましんいち) 郷土資料館 学芸員



中世豊島氏の盛衰について調べています

皆さんは、かつて旧豊島郡域(現在の北区・豊島区・板橋区・練馬区・荒川区等)を基盤に活躍した、(武蔵)豊島氏という武士団がいたことをご存じでしょうか?

豊島氏は、平安時代から南北朝時代にかけて、武蔵国に大きな勢力をもっていた平姓秩父氏(しんぶしだん)の一族でした。鎌倉幕府の成立期には同族である葛西氏とともに、いち早く源頼朝を支援して御家人となり、以降個性的な武蔵武士として活躍しました。その後、江戸城を築城したことで知られる太田道灌との戦いに敗れ、室町時代末期に豊島氏は滅亡してしまいます。

残念ながら、中世豊島氏に直接関係する史跡などは、豊島区内には遺されていませんが、「豊島」郡内の石神井城、練馬城、平塚城を拠点にしていた「豊島」氏の盛衰を知りたいということから、「豊島」つながりにより、「豊島」区立郷土資料館あてに問い合わせをされる方がしばしば見られます。

最初に紹介する『豊嶋氏の研究(関東武士研究叢書5)』は、中世豊島氏について書かれた研究書の原点と言えるもので、豊島氏についての詳細を調べている方にとっては基本的な文献です。豊島氏の興亡についての詳細、豊島氏関連史跡の紹介など網羅的な内容になっていま

す。続いて、『豊島氏とその時代—東京の中世を考える』は、中世豊島氏の全体像、最近の研究動向を知るにはうってつけの一冊です。本書は、平成9年11月に行われたシンポジウム「豊島氏とその時代」の報告集の形をとっており、個別研究の内容はもちろん、今後の研究課題なども比較的平易に示されています。

また、中世豊島氏研究会による調査・研究成果を、郷土資料館が取りまとめた編集した中世豊島氏関係史料集が全部で4冊刊行されています。①『豊島・宮城文書』は、国立公文書館内閣文庫所蔵の「豊島・宮城文書」と豊島氏関係系図諸本を収録したものです。②『豊島氏編年史料Ⅰ』は、豊島氏が登場する平安時代から滅亡する文明10(1478)年までの豊島氏の動向がわかる史料を年代順に配列したものです。③『豊島氏編年史料Ⅱ』は、豊島氏が太田道灌に滅ぼされた文明10年以降の戦国～織田・豊臣政権期の豊島氏関係史料を収めています。④『豊島氏編年史料Ⅲ』は、文禄元(1592)年以降、江戸時代を中心とする豊島氏関係史料が収録されています。これら4冊には史料のみならず史料解説や関連論考が収められています。中世豊島氏についてより深く知りたい、追究したいという方は是非ご一読ください。

# 地域とつながる



豊島岡女子学園中学高等学校 司書教諭 高司 陽子

2005年度より校内での読み聞かせ活動を開始。のち中央図書館でのおはなし会に携わり、現在三年目に到る。全国学校図書館協議会 基本図書目録編集委員。

「こどもがつかひがくえんのおはなしにみるおはなし会」で活動を始めて頂きはや二年目となった。

もともとは校内の昼休みでの生徒の活動から丸四年の下積み時代を経て、中央図書館児童コーナーで開催されるおはなし会に連携事業として発表の機会を得た。年間約六回、二ヶ月に一度の割合で、中間期末検査や学校見学会などの学校行事の合間を縫ってなんとかここまで来た感がある。この連携事業計画においては、各担当者の方、校内教員の多くの方々の力あつたものであり、深く感謝したい。

初期の頃のことである。一名のお子様は生徒四名が向き合った時の本番直前のことだ。まだまだ認知されていない事に対する寂しさと同じに、こんなに練習してきたでもっと沢山の人の見てもう良かったと呟く生徒がいた。「こつなつたら目の前にいる、このたった一名のお子様はたぶん楽しんでらあつたよ。」と肩を落して気味な生徒達に声を掛けた。その時、かえって気が楽になりました。精一杯頑張ります。この返答に内心ほっとしたものだ。実はこの会で、お子様が途中でおトイレに行きたくなり、みんなで微笑ましく待たせていただいた記憶がある。参加者一名ならではのイベントである。現在ではお陰様で毎回一定人数の参加者が来て下さり、「おねえさんの日なので来ました。」この声も聞かれ、生徒共々やつてきてよかったと思える瞬間を味わうことも出来た。



私自身も小学生の息子二人がいる。子供の読み聞かせの時代から、小説読みへ移行する楽しさと難しさも現在進行中で学んでいる。本校生徒においても、中学入学時に本の読む習慣のついている生徒は幼少期の読書量が豊富である。「心の時代」である。地域のお子様をはじめ、生徒達には明るくたくましく生きる力を育成するための良書を沢山読み、心と頭の栄養をとんとんとこほしてい。最後に被災地の子供達と世界の戦火の下で絵本すら手に取れない子供達にも、一日も早く平和な時間が訪れるように祈りてやまない。

## 豊島区子どもの読書に関する講習会が開催される

豊島区では、「豊島区子ども読書活動推進計画(第二次)」に基づき様々な事業を実施しています。今回、その一環として9月2日(金)に子どもの読書に関する講習会「科学の本っておもしろい—科学あそびってなあに?—」を開催しました。対象は、豊島区内の教育・福祉施設などで読み聞かせボランティアをしているか、また、子どもたちに向けた読み聞かせに関心のある豊島区民の方です。講師は、科学読物研究会会員・仮説実験授業研究会「開楽クラブ」会員で、岩波書店『理科読をはじめよう』(共著)をはじめとして多数の著書がある坂口美佳子さんをお願いをしました。70名近くの方にご参加をいただき、とても楽しく、そして大変ためになる科学遊びのお話と実技を習得できたようです。今回の講習会で得た知識、技術を今後の子ども読書活動のために広めていくことが期待されます。

坂口美佳子さん



### 巣鴨図書館 臨時休館のお知らせ

ICタグの導入と自動貸出機等の設置工事のため臨時休館いたします。ご利用の皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

期 間：23年11月7日(月)～11月28日(月)

なお、次の期間は臨時窓口を開設しますので、予約資料の貸出、予約の受付、資料の返却などが可能です。

開設日：11月8日～11月27日(14日・21日・25日は除きます。)

開設時間：平日 9～19時 土日祝日 9～17時

### あうるすぽっとからのお知らせ

#### あうるすぽっとのクリスマス

#### 熊谷和徳クリスマスタップ『CHRISTMAS DREAM of TAP』

今年のクリスマスはタップ! 世界で活躍する熊谷和徳・KAZ のクリスマスタップライブを開催します。



熊谷和徳

#### 出演

熊谷和徳、TAPPERS RIOT、ワークショップ参加者 ほか

#### 公演日時

12月23日(金)	16:00～
12月24日(土)	16:00～
12月25日(日)	18:00～

#### チケット料金

豊島区民(在勤・在住/要証明書)	3,000円
一般	4,000円
学生	3,000円

#### 問い合わせ

あうるすぽっとチケットコール 03-5391-0516

#### ●ライブに向けたワークショップ●

KAZと一緒にライブのワンシーンを創り上げ、12月23日～25日の本番に挑みます。こどもからおとなまで思いきりタップにチャレンジ!

講師 熊谷和徳、TAPPERS RIOT

対象 Kids 小学4年生～中学3年生  
初心者 高校生以上  
経験者 タップの経験があり、タップシューズを持参できる方

定員 Kids 15名

初心者 20名

経験者 25名

日程 12月4日(日)、11日(日)、18日(日)～25日(日)(23～25日は公演を含む)

参加費 4,000円

申込め切 11月11日(金)

チケット発売: 10/22(土)～

#### ●関連ワークショップ●

初心者向け

タップダンスワークショップ

9月から11月にかけて毎月一回、初心者向けのタップダンスワークショップを開催中。タップシューズがなくても気軽にご参加いただけます。

日程 10月30日(日)、11月27日(日)

時間 18:00～20:00

講師 熊谷和徳 他

対象 小学4年生以上

人数 各回20名

参加費 各回1,000円

申込め切 開催日の約10日前

※各詳細は、あうるすぽっとHPをご覧ください。

あうるすぽっと

# 図書館イベント情報

## ◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

- 各図書館の連絡先
- 中央図書館 3983-7861
  - 池袋図書館 3985-7981
  - 駒込図書館 3940-5751
  - 目白図書館 3950-7121
  - 巣鴨図書館 3910-3608
  - 千早図書館 3955-8361
  - 上池袋図書館 3940-1779
  - 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	10月	11月	12月
中央図書館 児童コーナー	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★2日・おはなしこうさく会 午後2時 ★30日・子どもと本をつなぐボランティア団体 によるおはなし会 午後2時 (池袋親子読書会)	★6日・おはなしこうさく会 午後2時 ★19日・豊島岡女子学園によるおはなし会 午後2時 ★27日・子どもと本をつなぐボランティア団体 によるおはなし会 午後2時(虹のポケット)	★18日・冬のおはなし会スペシャル (パネルシアターや劇など) 午後2時 5階会議室
駒込図書館 (駒込地域文化 創造館)	土曜日 午後3時 (10月8日は休み)	—			★17日・おはなしのはこ クリスマススペシャル (ビッグブックの読み聞かせ・パネルシアター等) 午後3時
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時	★12日・ほんのじかん こうさくかい 午後3時	★30日・すがもこどもえいがかい 午後3時 「くまの子ウーフ」(18分)	★21日・ほんのじかん ふゆのおたのしみスペシャル (絵本・紙芝居の読み聞かせ) 午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※		★23日・さくらんぼえいがかい 午後3時※ 「セロひきのゴージュ」(21分) 「ミッキーマウスのおたんじょう日パーティ」(9分)	★21日・さくらんぼクリスマス会 (絵本・紙芝居・パネルシアター・ビッグブックなど) 午後3時※
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時	—	★22日・たんぼえいがかい 午後2時 「こぎつねのおくりもの」(30分)	★12日・たんぼほこうさくかい (クリスマスの壁飾り作り) 午後2時 ★26日・たんぼえいがかい 午後2時 「天の岩戸」(17分)	★24日・たんぼほクリスマスかい (ビッグブックの読み聞かせ・影絵劇など) 午後2時 池袋第3区民集会室
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時		★23日・かきくけこうさくかい 午後3時 「つくてみよう!エコバッグ」	★14日・クリスマススペシャルおはなし会 (パネルシアター、ビッグブック・絵本の読み 聞かせなど) 午後3時
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分			★21日・ほんとこおはなしかい クリスマス スペシャル(絵本の読み聞かせなど) 午後3時30分

## ◆「10月27日は文字・活字文化の日」～図書館おはなし会のご案内～

知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現を目指して、平成17年7月に文字・活字文化振興法が制定されました。それに伴い、毎年10月27日を「文字・活字文化の日」と定め、文字・活字文化についての関心と理解を広く深めるための様々な取り組みが行なわれています。区内各図書館では、子ども達に向けて多彩な催しを行ないます。詳細は各図書館へお問い合わせください。

### ●文字・活字文化の日スペシャル

図書館	実施日時・実施期間	行事名	場所	内容
中央図書館	10月23日(日) 午後2時～	おはなしかい	児童コーナー	絵本の読み聞かせ・パネルシアターなど
駒込図書館	10月22日(土) 午後3時～	おはなしのはこ	駒込地域文化創造館	ビッグブックの読み聞かせ・紙芝居・パネルシアターなど
巣鴨図書館	10月26日(水) 午後3時～	ほんのじかん	地下会議室	絵本の読み聞かせ・紙芝居など
上池袋図書館	10月26日(水) 午後3時～	さくらんぼおはなしかい	地下ホール	ビッグブック・パネルシアターなど
池袋図書館	10月15日(土) 午後2時～	おはなしたんぼぼ	ワークルーム	絵本の読み聞かせ・パネルシアターなど
目白図書館	①10月15日(土) ～11月24日(木) ②10月19日(水) 午後3時～	にほんごはたのしい!	①児童特集コーナー ②集会室	①児童書展示 ②スペシャルおはなし会 (ビッグブック等の読み聞かせ)
千早図書館	10月26日(水) 午後3時30分～	ほんとこおはなしかい	視聴覚室	絵本の読み聞かせ・小道具を使ったお話など

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

## 千早図書館友の会主催 「千早進歩自由夢月例会」

※申込不要。当日、直接会場(10月は集合場所)にお越しください。

### ◆千早進歩自由夢(10月例会・史跡散歩)

日程 10月22日(土)  
 集合場所 午後1時 東京メトロ有楽町線および副都心線・千川駅改札集合  
 または、午後1時30分 都電荒川線・東池袋四丁目駅大塚方面行きホーム下集合  
 旅程内容 「雑司が谷の歴史を訪ねて」  
 郷土資料館学芸員の案内により、雑司が谷の歴史が感じられる名所旧跡を散策します。  
 [散策予定場所]  
 ○豊島ふくろう・みずく資料館  
 ○雑司が谷鬼子母神  
 ○雑司が谷日宣教師館  
 ○料亭「雑司が谷 寛」(三角寛旧邸)  
 ※今回は、「雑司が谷 寛」様の特別なご配慮により、見学が可能になりました。通常は、一切見学はできませんので、個人的な見学の申込等はご遠慮ください。

### ◆千早進歩自由夢 (11月例会・活動弁士による活動写真上演会)

日時 11月19日(土) 午後1時30分開場  
 午後2時～午後3時30分  
 会場 千早図書館 2階 視聴覚室  
 上演題目 ○「国定忠治」とワークショップ  
 ○「蒙勇イロイ」ほか  
 講師 活動写真弁士・麻生八咫氏  
 上演内容 映画が無声映画であった大正から昭和初期にかけて、活動弁士による映画上映は「娯楽の王様」でした。トーキーの普及により沈滞してしまっていた活動写真ですが、現在でも日本の伝統芸能である話芸「活弁」は脈々と息づいています。今回は、活動弁士界の第一人者・麻生八咫氏をお呼びして、皆さまを「活弁」の世界にお連れいたします。麻生八咫氏の上演はもちろんのこと、参加者の方にも「活弁」を体験していただくワークショップの時間もごさいます。  
 講師略歴 大分県出身。  
 1979年 弁士・池俊行氏の活弁「坂本龍馬」を観て感動し弟子入り。活動弁士となる。  
 1995年 イタリア・パルマ市にて文化庁主催「ジャパン映画フェスティバル」で活弁公演  
 1998年 活弁界初の文部大臣賞受賞  
 2003年 NHK「課外授業ようこそ先輩」に出演  
 現在、浅草リトルシアターにて、定期活弁公演を開催中。  
 著作「映画ライブ それが生」(高木書房)

## 図書館カレンダー

○は土日祝 ■は休館日

中央図書館							駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白千早図書館							雑司が谷図書貸出コーナー						
開館時間							開館時間							開館時間						
平日 午前10時～午後10時 土日祝 午前10時～午後6時							平日 午前9時～午後7時 土日祝 午前9時～午後5時							平日 午前10時～午後7時 土日祝 午前10時～午後5時						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						①							①							①
10	2	3	4	5	6	7	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					30	31						30	31					
			1	2	3	4				1	2	3	4				1	2	3	4
11	6	7	8	9	10	11	6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			27	28	29	30				27	28	29	30			
				1	2	3				1	2	3	4				1	2	3	4
12	4	5	6	7	8	9	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30	31	25	26	27	28	29	30	31

編集後記

とても遅く、まもなく鬼子母神のお会式です。これは、享和・文化文政の頃から日蓮上人の忌日を中心とした、毎年10月16日から18日に行われていた伝統行事です。白い和紙の花を一面に付けた、高さ3〜4メートルの万灯を掲げて、団扇太鼓を叩きながら鬼子母神まで練り歩きます。万灯が幻想的な夜の練り供養をまだ見たことがない方は、今年こそぜひ一睹ください。(新)